苦しいだけの至福が襲い来る

緑色の夏がおわって

あなたはいなくなった　さよなら

つかの間の幸福を

享受(きょうじゅ)して　おやすみ

あなたとの戯(たわむ)れが

砂(すな)になってしまわぬよう

横顔(よこがお)から零(こぼ)れてる

愛にみえる何か

掬(すく)いあげずに　おわり

揺れる　揺れる　空(から)っぽなまま揺れる

自分という器(うつわ)の中　何もなくて退屈(たいくつ)だなあ

倦怠(かんたい)と空虚(くうきょ)　意味ない善悪(ざんあく)と躊躇(ちゅちょ)

浅はかなままで街に身(み)を委(ゆだ)ねていく

名前も知らないあなたがいた

言葉なんて無くて構(かま)わなかった

疑(うたが)わないで今日も　飲みこんだよ色々

いつかは心までくれるかなあ

求めるだけで　欲しいものが手に入るなら

あなたの声で　満(み)たしてほしかったなあ

苦しいだけの至福が襲い来る

緑色の夏がおわって

あなたはいなくなった　さよなら

つかの間の幸福を

享受して　おやすみ

あなたとの戯れが

砂になってしまわぬよ

横顔(よこがお)から零れてる

愛にみえる何か

掬(すく)いあげずに　おわり

触(ふ)れる　触れる　あなたの手が触れる

灰色(はいいろ)の景色(けしき)のまま　愛せるのは退屈だなあ

旋回(さんかい)後(ご)急(きょう)降下(こうか)して

熱帯魚(ねだいぎょ)みたいに宙(ちゅう)を舞(ま)う

ユートピアみたいな朝焼(あさや)けのバビロン

笑ってよもっと　ほら笑ってよもっと

目を刺(さ)すくらいの日差(ざ)しが　ほら見てるよ

笑ってよもっと　ほら笑ってよもっと

目を刺すくらいの日差しがほら見てるよ

求めるだけで　欲しいものが手に入るなら

あなたの声で　満たしてほしかったなあ

移(うつ)ろいゆく記憶(きよく)が癒(い)やしていく

隣にやっと秋がめぐって

あなたは綺麗に消えた　さよなら

つかの間(ま)の絶望(ぜつぼう)を

甘受(かんじゅ)して　おやすみ

あなたとの思い出を

夢の奥底(おくそこ)仕舞(しま)いこもう

横顔から零れてた

愛にみえた何か

乾(かわ)いて朝(あさ)に消えた